

英文解析トレーニング

(共通基本事項)

個別指導塾フェイス

目次

ページ

3	1. 英語のしくみ（構造）
4	2. 品詞について
5	2-1. 品詞と文の要素
6	参考. 語、句、節、文
7	2-2. 名詞の働きをする言葉
8	2-3. 動詞の働きをする言葉
9	参考. 修飾（限定）
10	2-4. 形容詞の働きをする言葉（1） 【機能】
11	2-4. 形容詞の働きをする言葉（2） 【形】
12	2-5. 副詞の働きをする言葉（1） 【機能】
13	2-5. 副詞の働きをする言葉（2） 【形】
14	●解析トレーニング 修飾語（句/節）を抜き出し、その修飾先を示しなさい
15	2-6. 前置詞（1）
16	2-6. 前置詞（2）
17	2-7. 接続詞
18	3. 句と節
19	3-1. 句（1） 【句の機能】
20	3-1. 句（2） 【句の形】
21	3-1. 句（3） 【まとめ】
22	●解析トレーニング 下線部を動詞、動名詞、不定詞、現在分詞、過去分詞に分けなさい
23	3-2. 節（1） 【節の構造】
24	3-2. 節（2） 【節の機能】
25	3-2. 節（3） 【節の形】
26	3-2. 節（4） 【まとめ】
27	3-2. 節（5） 【例文】
28	●解析トレーニング 主節と従属節をマークし、従属節が主節とどう関係しているかを解析しなさい
29	4. 動詞と5文型のしくみ
30	4-1. 第1文型（SV）（1）
31	4-1. 第1文型（SV）（2）
32	4-2. 第2文型（SVC）
33	4-3. 第4文型（SVOO）（1）
34	4-4. 第4文型（SVOO）（2）
35	4-5. 第5文型（SVOC）
36	補足：動詞の辞書の引き方

本資料では、英文の構造を理解するために必要な内容についてのみ説明します。
文法の詳細は、文法書を参考にして下さい。

1. 英語のしくみ(構造)

英語学習で大切なのは、英語のしくみ(構造)を、まず、理解することです。

単語、語法、イディオムなどを覚えることも非常に大切ですが、『英語のしくみ(構造)』を、十分に理解した上で、それらの学習を行うと、大変、効率よく英語のスキルが向上します。

英語は日本語の構造と違い『**言葉の位置**』が、**文の意味を大きく左右します**。

たとえば、日本語で、以下のように「言葉の位置」を変えると、違和感はありますが、意味は変わりません。

1. 彼は 夕食を 作った。
2. 夕食を 彼は 作った。
3. 夕食を 作った 彼は。

ところが、英語の場合、「言葉の位置」を変えると、以下のように、意味が違ってきます。

1. He made dinner. (彼は夕食を作った。)
2. dinner he made → dinner (which) he made
(彼が作った夕食(文ではなく名詞句になる))
3. Dinner made him. (夕食は彼を作った。(意味不明))

そして、英語の基本の『言葉の位置』を決めているのが**5文型**です。

5文型というのは、言葉を**動詞を中心**にして配置し、それぞれの位置の言葉に特別な意味を持たせるといふ、英文を構成する仕組みで、この仕組みに5つの基本パターンがあるということです。**どんな難しい英文でも、基本的に、この5文型をもとにしています**。

第1文型：	S	V				S ：	主語/主部
第2文型：	S	V	C			V ：	述語/述部
第3文型：	S	V	O			O ：	目的語
第4文型：	S	V	O₁	O₂		C ：	補語
第5文型：	S	V	O	C		M ：	修飾語(いたるところに配置される)

S(主部/主語)、V(述部/述語)、O(目的語)、C(補語)、M(修飾語)を**文の要素**といいます。M(修飾語)は、文の主たる要素にはならず、文のいたるところに(規則に従って)配置され、言葉(語、句、節、文)を修飾しますが、あってもなくても、文の骨格自体は変わりません。また、言葉には名詞、動詞、形容詞という機能を定義した**品詞**という役割があり、文の要素と品詞には決まった対応があります。例えば、「S(主語/主部)」には「名詞の働きをする言葉」しか使用できません。

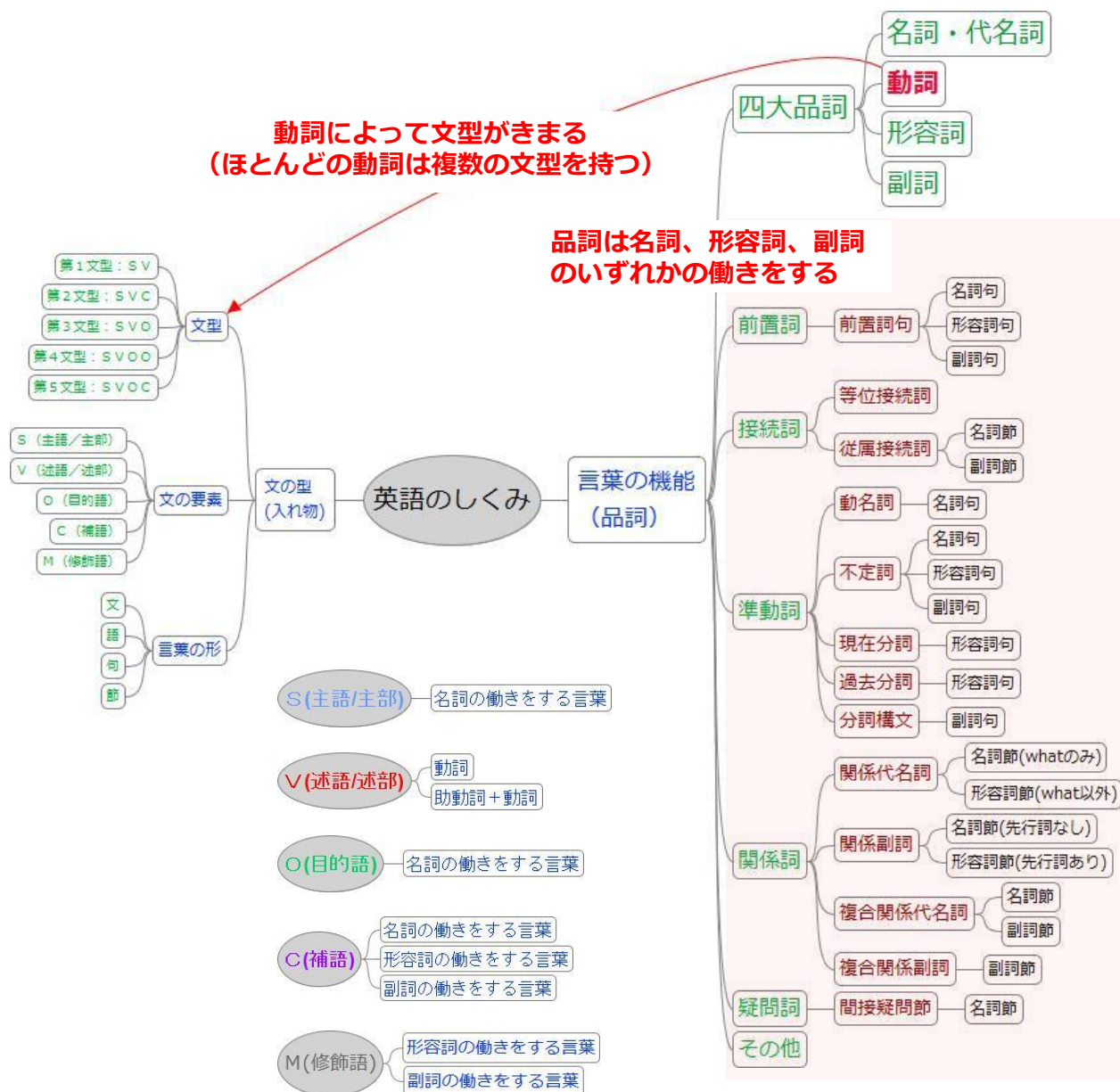


2. 品詞について

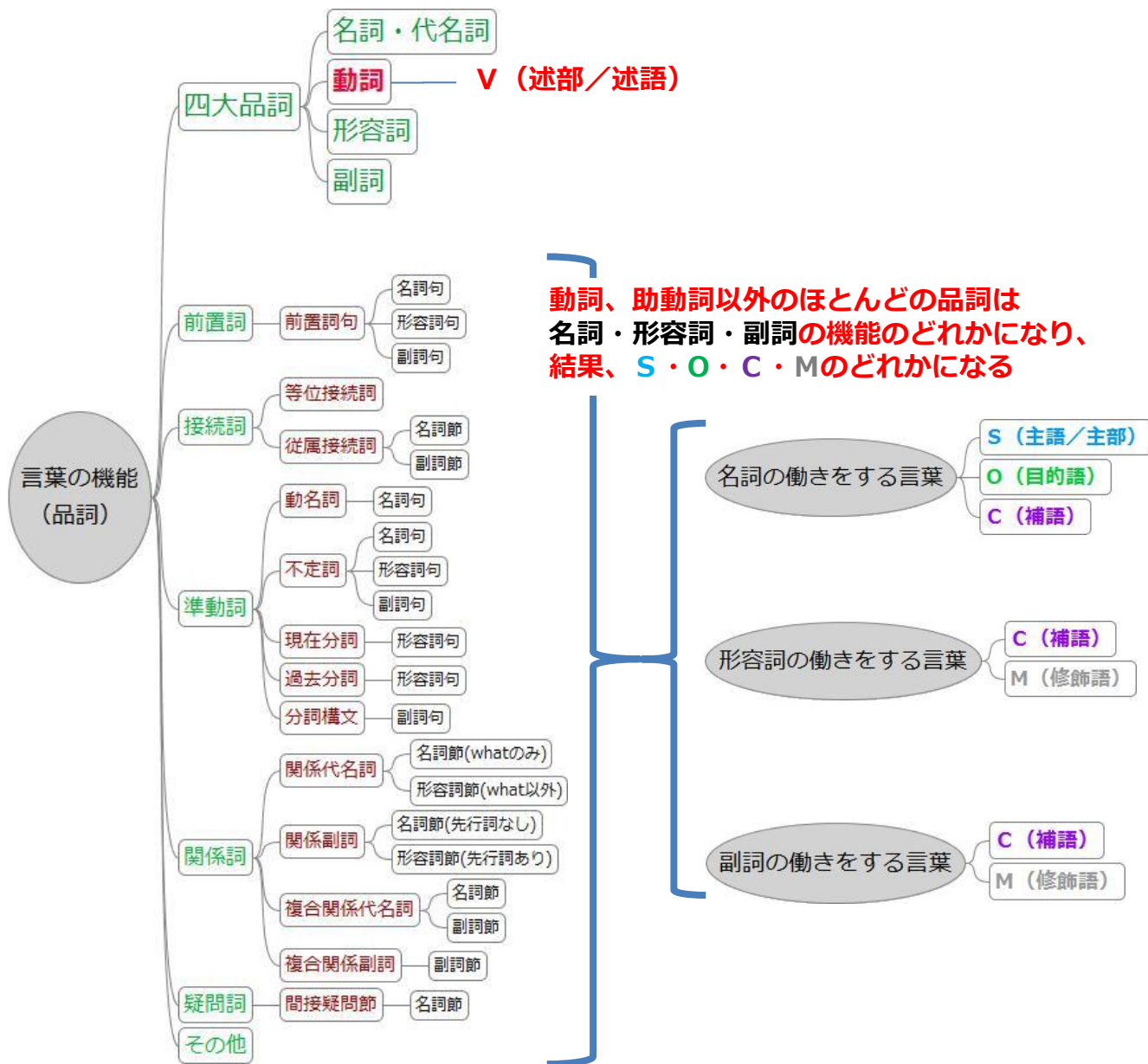
① 基本品詞

言葉は、それぞれが持つ「機能（役割）」によっていくつかの種類に分けられます。それを品詞と呼びます。基本的な品詞は以下のとおりです。（他にも、助動詞、疑問詞、冠詞、間投詞などの品詞があります）。

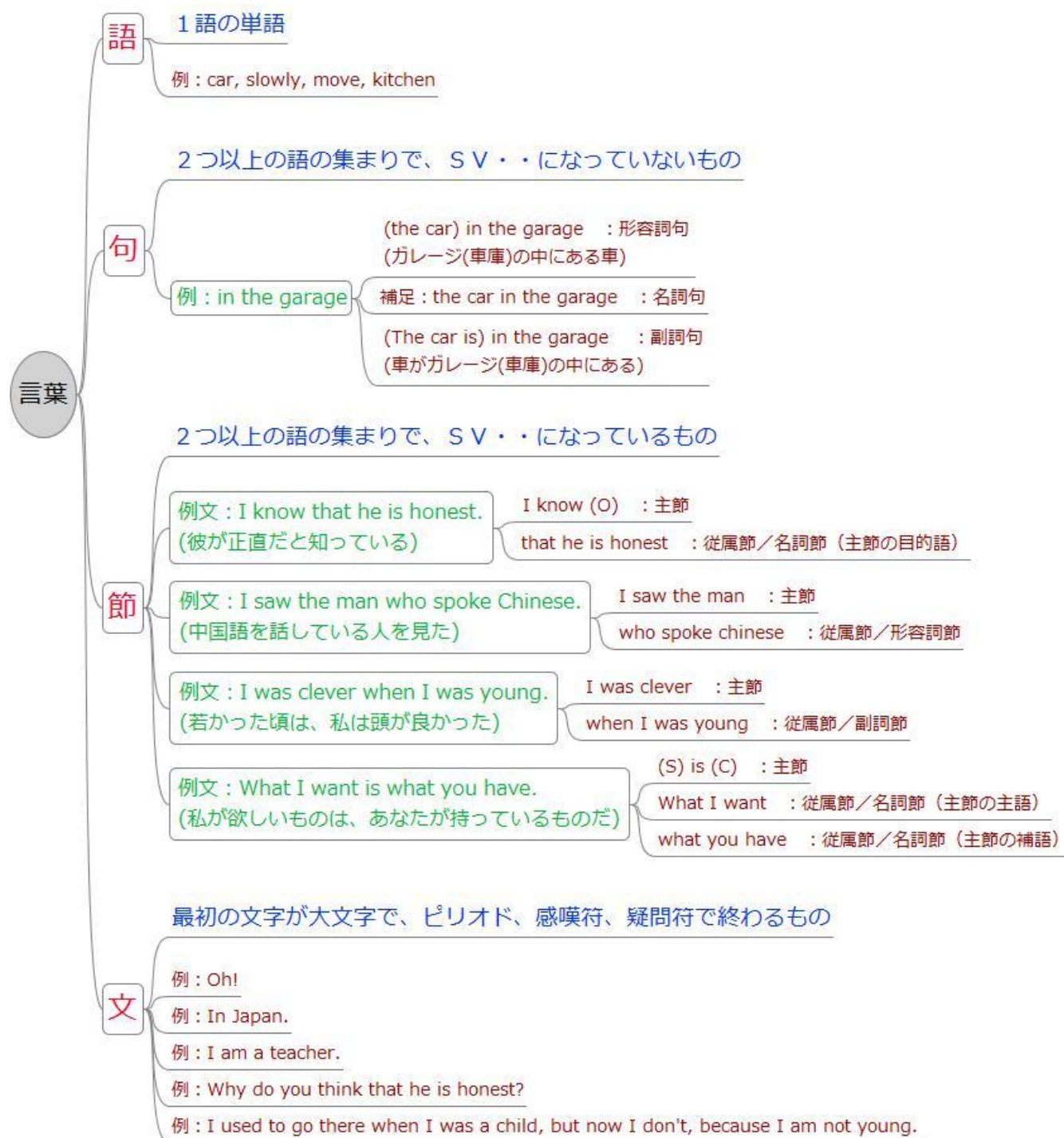
品詞	機能	一語の例
(代) 名詞	人・物・事などを表す	Mike, dog, car, you など
動詞	動作と状態を表す	run, walk, speak, eatなど
形容詞	名詞を修飾する	soft, old, short, thin など
副詞	さまざまな品詞(主に動詞)、句、節、文を修飾する	carefully, beautifully など
前置詞	主に名詞（句）の前に置かれて、前置詞句となり、形容詞、副詞や名詞の働きをする	in, on, at, of, by など
接続詞	語と語、句と句、節と節、文と文を結びつける	and, but, or, when など



2-1. 品詞と文の要素



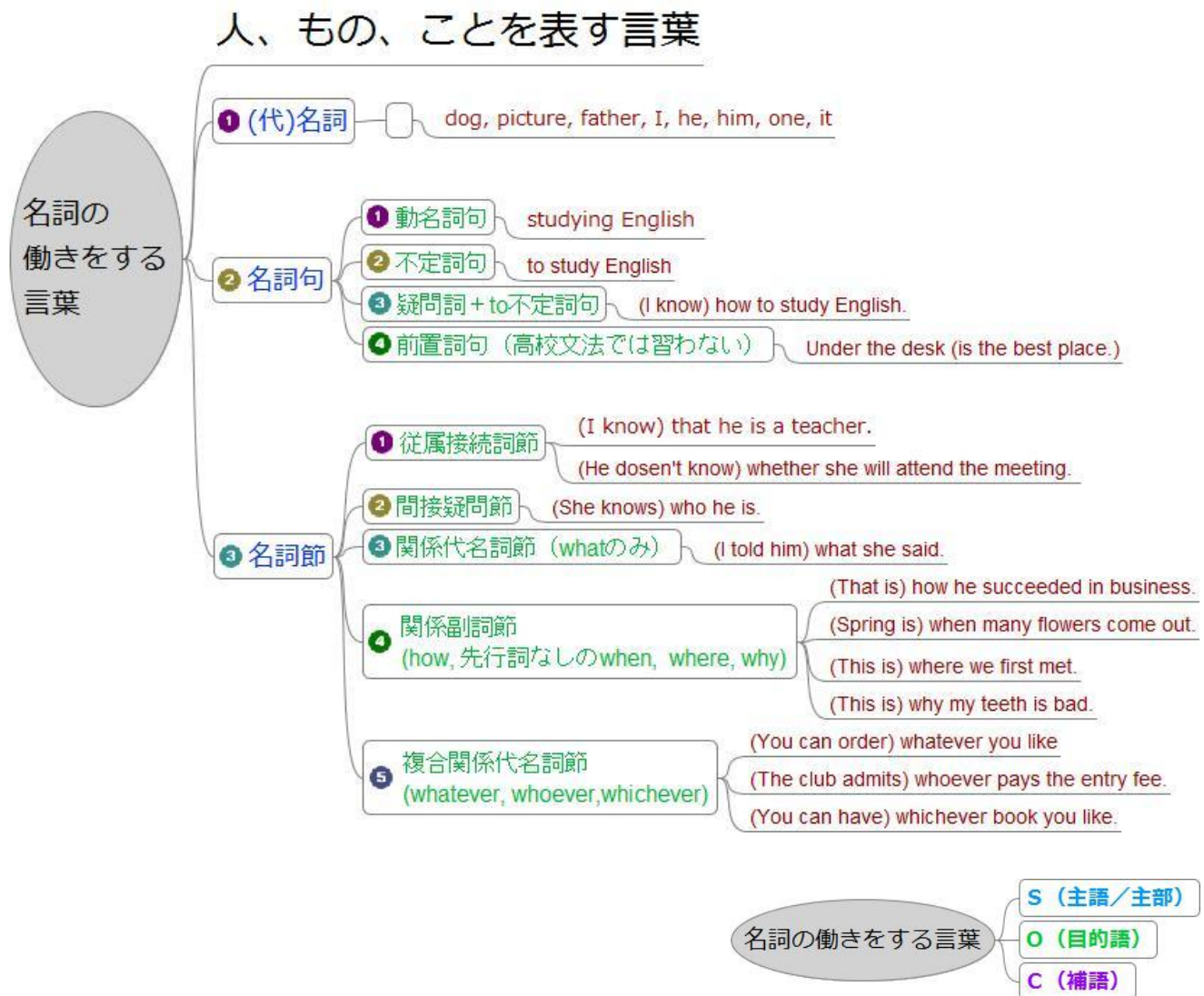
参考. 語、句、節、文



複数の **語** **句** **節** が規則的に集まって **文** になる

どこまでが、一つ句で、どこまでが一つの節かを見分け、それぞれが、どのような機能(名詞、形容詞、副詞)かを見分け、修飾(形容詞、副詞)の場合、どの言葉を修飾するかを見分けることが、非常に重要

2-2. 名詞の働きをする言葉



2-3. 動詞の働きをする言葉



動詞の働きをする言葉と、準動詞（不定詞、動名詞、分詞、分詞構文）を見分けることが大切！！

また、準動詞になっても、もとの動詞が持つ、文型、用法は、そのまま継承される（引き継がれる）。

① 動詞の文型（用法）、語法は、準動詞になっても変わらない。

make O C （OをCにする）

→ making children diligent （子供を勤勉にすること：動名詞）

→ the mother making children diligent （子供を勤勉にした母親：現在分詞）

think of O as A （OをAとみなす（考える））

→ the man thought of as one of the greatest artist (by 誰々)
（最も偉大な芸術家の一人としてみなされている男：過去分詞）

translate O into A （OをAに翻訳する）

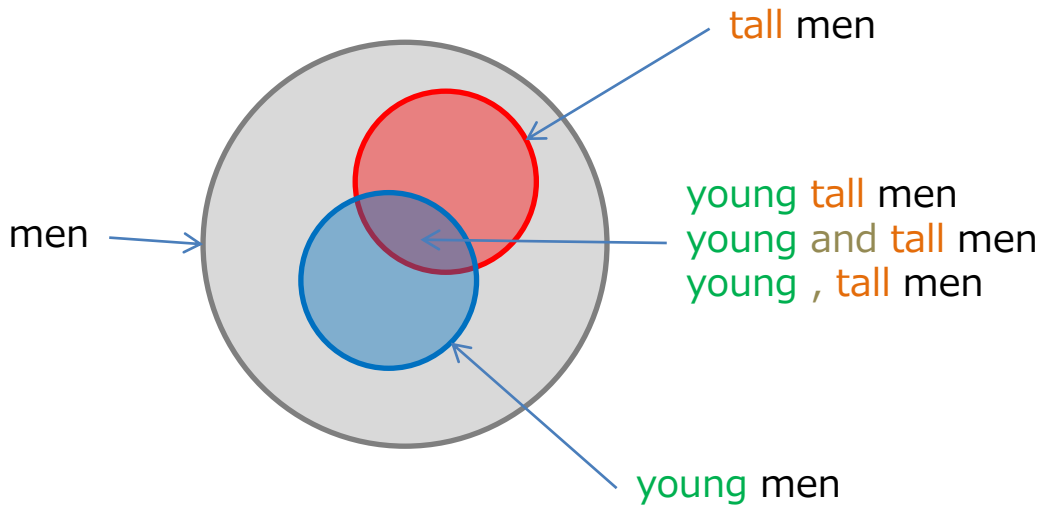
→ the book translated into ten languages
（10ヶ国語に翻訳された本：過去分詞）

→ translating Japanese into English
（日本語を英語に翻訳すること：動名詞）

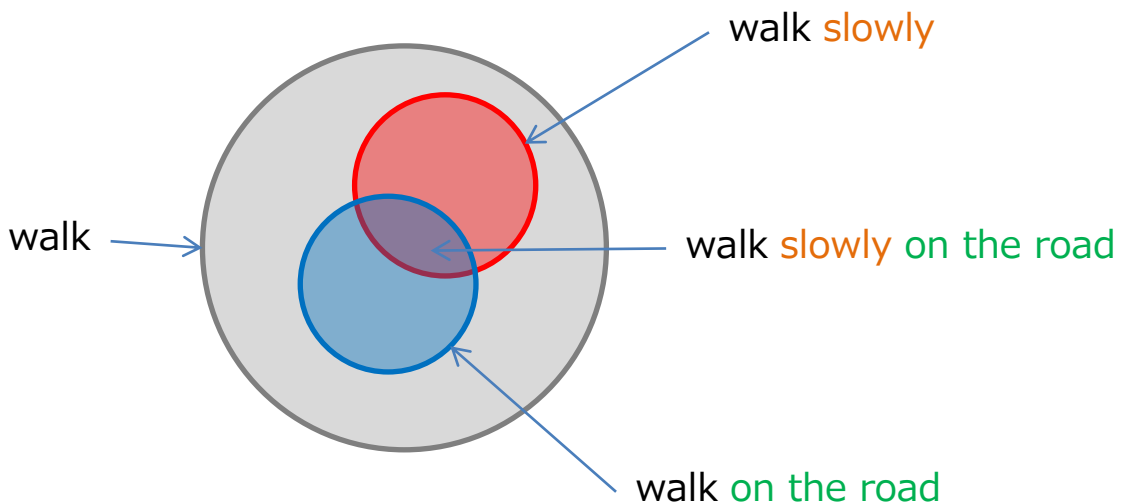
Nexstageなどで語法をしっかり覚えましょう！！

参考. 修飾(限定)

- 形容詞 → 人、もの、こと（いわゆる名詞）を修飾
 （形容詞(修飾)+名詞 → 名詞）



- 副詞 → 動作、状態（主に動詞）を修飾
 （動詞+副詞（修飾）→ 動詞）



2-4. 形容詞の働きをする言葉(1) 【機能】



参考：限定用法でしか使用できない形容詞

live[laiv](生きている)、living(生きている)、mere(ほんの/単なる)、elder(年上の)、former(前の)、latter(後の)、lone(一人の)、main(おもな)、golden(貴重な)、total(全部の)、daily(毎日の)、very(まさに) など

参考：叙述用法でしか使用できない形容詞

alive (生きて)、asleep (眠って)、airaid (恐れて)、awake(目覚めて)、aware(気づいて)、content(満足して)、glad(喜んで)、well(元気で) など

参考：限定用法と叙述用法で意味が変わる形容詞 (以下、例)

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ● late <ul style="list-style-type: none"> ・ the late news report (最近のニュース記事) ・ He was late. (彼は遅れた。) ● right <ul style="list-style-type: none"> ・ the right hand (右手) ・ He is right. (彼は正しい。) | <ul style="list-style-type: none"> ● present <ul style="list-style-type: none"> ・ the present topic (現在の話題) ・ He was present. (彼は出席していた。) ● ill <ul style="list-style-type: none"> ・ ill temper (不機嫌) ・ He was ill. (彼は病気だった。) |
|--|--|

■ 名詞の形容詞的な用法

①名詞(a) 名詞(b)で、先行する名詞(a)が形容詞化する。

winter sports (ウィンタースポーツ), summer holidays (夏休み), a kitchen table (台所のテーブル), a corner shop (角の店), a tennis court (テニスコート), traffic lights (信号機)

②形容詞-名詞(ed)で、形容詞になる。

the red-nosed reindeer (赤鼻のトナカイ), a white-edged picture (白縁の写真)

2-4. 形容詞の働きをする言葉(2) 【形】



■ 関係代名詞と分詞による修飾

- ① The man is swimming in the river. (進行形の文)
- ② the man [who is swimming in the river] (関係代名詞主格節が修飾した名詞句)
- ③ the man [swimming in the river] (現在分詞句が修飾した名詞句)
- ④ Many people know the man. (平滑文)
- ⑤ The man is known to many people. (受動態の文)
- ⑥ the man [who is known to many people] (関係代名詞主格節が修飾した名詞句)
- ⑦ the man [known to many people] (過去分詞句が修飾した名詞句)
- ⑧ the man [who(m) many people know] (関係代名詞目的格節が修飾した名詞句)

■ 関係代名詞かどうかの判断

1. 関係代名詞 (which, who(m), that)は、必ず先行詞 (修飾対象の名詞) がある。
2. 関係代名詞のあとの文で S、O、C もしくは前置詞の O のいずれかが抜けている。
文の要素の欠落は、強調構文 (It is ~that...) の場合もあるので、注意。

- ① I know the fact that they know. (私は彼らが知っている事実を知っている：関係代名詞)
- ② I know the fact that they know it. (私は彼らがそれを知っているという事実を知っている)
(同格の接続詞)
- ③ It is the fact that they know. (彼らが知っているのは、その事実だ！：強調構文)

2-5. 副詞の働きをする言葉(1) 【機能】

さまざまな品詞(主に動詞)、句、節、文が
どのような状態であるかを説明する言葉



**その他、場合、条件、理由、目的、判断の根拠など、
形容詞の働きをする言葉以外の修飾する言葉はすべて
副詞的な働きをする。**

**つまり、副詞とは、形容詞の働きをする言葉以外の修
飾の言葉**

2-5. 副詞の働きをする言葉(2) 【形】

さまざまな品詞、句、節、文を修飾する言葉



●解析トレーニング 修飾語(句/節)を抜き出し、その修飾先を示しなさい

(1) A person who is trained to read body language can also guess which country someone is from just by watching his or her gestures.

train [trein]: [動] (他) ...を鍛える
body language 身体言語
guess [ges]: [動] (他) ...を推測する
gesture [dʒéstʃər]: [名] 身振り

(2) The possession of a sensibility that can imagine a world where everyone is happy is a special privilege of young people alone.

possession [pəzéʃən] [名] 所有すること
sensibility [sənsəbíləti] [名] 感性
imagine [imædʒin] [動] (他) ...を想像する
privilege [prívelidʒ] [名] 特権

(3) Individuals who showed the best results were those who wrote about topics that they had actively refrained from telling others about.

individual [ɪndəvídʒuəl] [名] 個人
result [rɪzʌlt] [名] 結果
topic [tápi:k] [名] 話題
refrain [rɪfréin] [動] (自) 差し控える
refrain from A : Aを控える

(4) Students who had chosen to reveal their inner thoughts and feelings in their writing visited the health center for illness much less often than those who had written about everyday topics.

reveal [rɪví:l] [動] (他) [隠れたもの] を見せる、を知らせる、
inner [ínər] [形] 内部 [内側] の
thought [θɔ:t] [名] 思考, 考え
writing 書いたもの
health center 医療センター

2-6. 前置詞(1)

① 前置詞の機能



■ 前置詞句の形容詞か副詞句かの判断

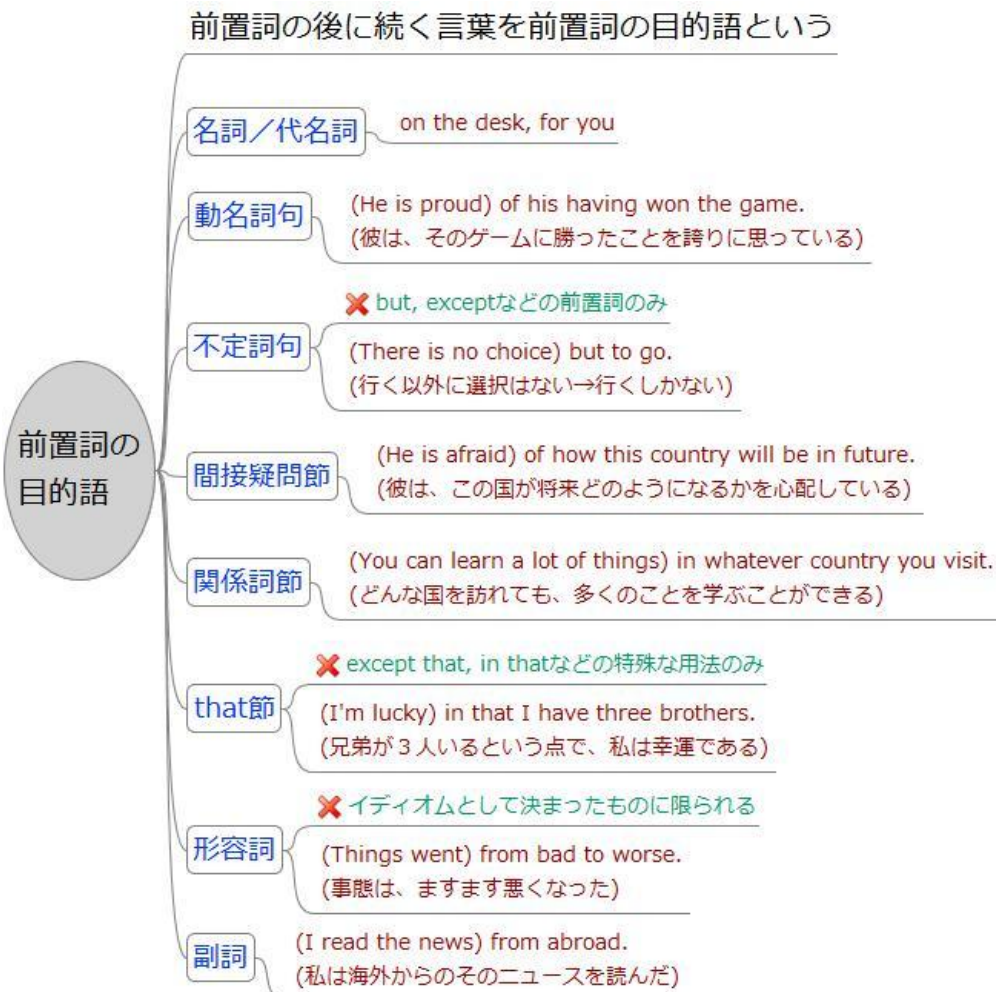
まずは、前置詞句の直前の名詞を形容詞的に修飾して意味が通じるかどうかを確認めよう。直前の名詞を修飾して意味が通じれば「形容詞」、意味が通じなければ「副詞」と判断する。

以下の文は、副詞か形容詞かがあいまいですが、一般的な状況を判断した解釈の例です。すべて、前後の文脈によっては、異なる解釈も可能です。

- | | |
|----------------------------------|------------------------|
| ① I saw the picture in my room. | (私は、自分の部屋で、その写真を見た：副詞) |
| ② I saw the man in the room. | (私は、その部屋で、その男と会った：副詞) |
| ③ I saw the man in the river. | (私は、川の中の男を見た：形容詞) |
| ④ I saw the picture in the book. | (私は、その本の中の写真を見た：形容詞) |

2-6. 前置詞(2)

② 前置詞の目的語



前置詞の目的語には、基本的に名詞の働きをするものしかありません。上記のように、さまざまな品詞が前置詞の目的語になりますが、いずれも、名詞的な用法で用いられています。

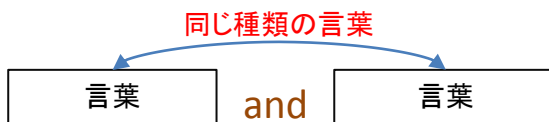
2-7. 接続詞

① 接続詞の機能



② 等位接続について

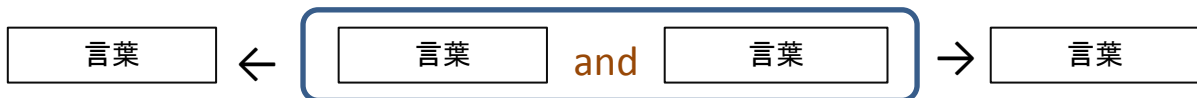
- 基本的に同じ種類の言葉をつなぐ。ただし、修飾語(句・節)がどちらか一方の言葉につく場合もある



- つなぐ言葉が3つ以上の場合:カンマで接続する。



- 等位接続詞でつながれた言葉がパックされ、前後の言葉につながる。

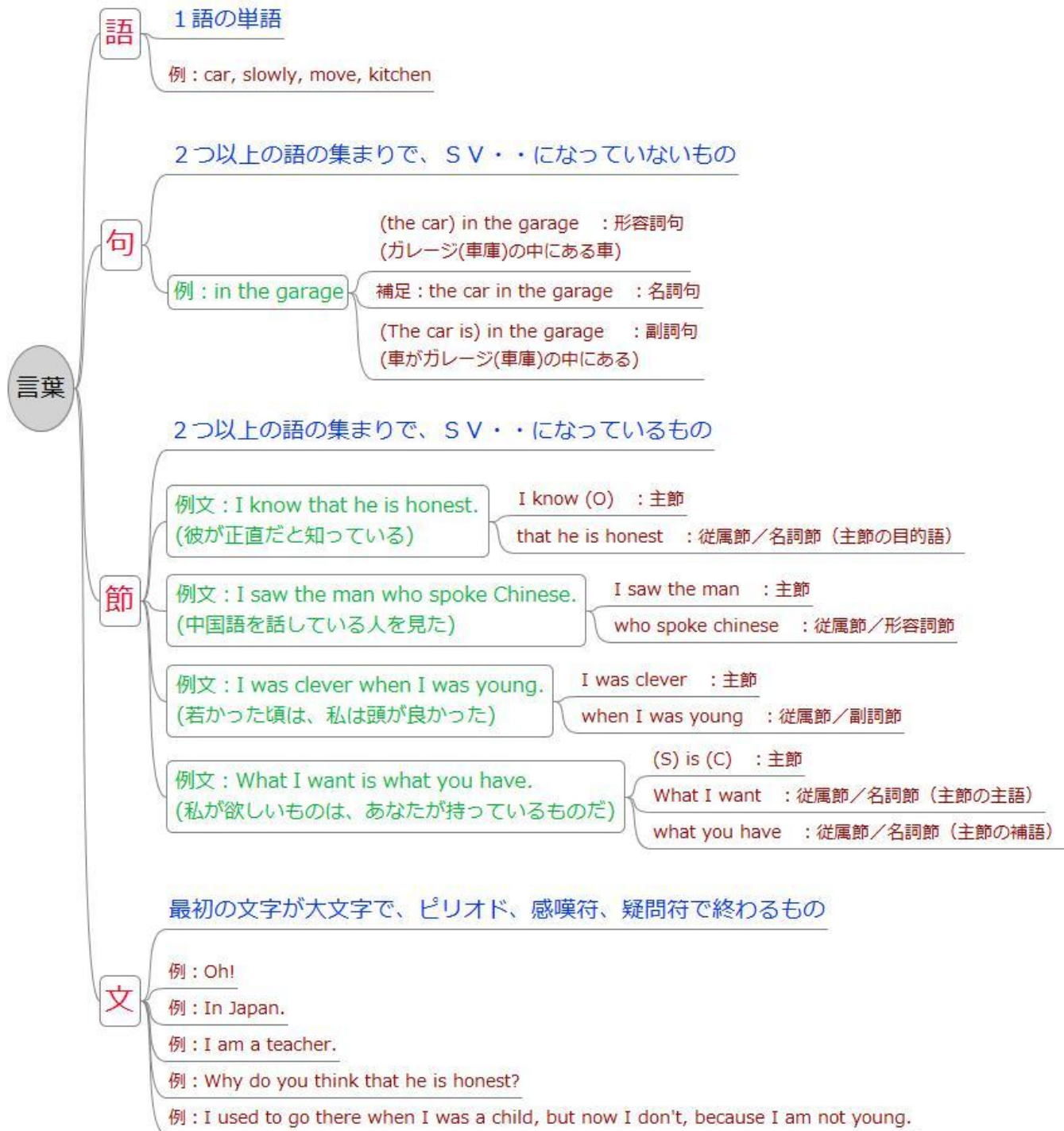


■ 解析トレーニング (簡単に和訳できる文でも解析してみよう)

設問: 以下のandの接続対象をマーク

1. You **and** I went to the park.
2. I want you to go outside **and** play with friends.
3. They are the result of different ways of growing the tea **and** treating it after it is picked.

3. 句と節



複数の **語** **句** **節** が規則的に集まって **文** になる

どこまでが、一つ句で、どこまでが一つの節かを見分け、それぞれが、どのような機能(名詞、形容詞、副詞)かを見分け、修飾(形容詞、副詞)の場合、どの言葉を修飾するかを見分けることが、非常に重要

3-1. 句(1) 【句の機能】



3-1. 句(2) 【句の形】

2つ以上の語の集まりで、S V・・・になっていない言葉

